

【日時】

令和8年5月27日(水)開催予定

【目的】

九州道路啓開計画【地震・津波編】の策定を受け、初動段階の実効性（共通認識・手順）を確認・習熟する。

①通信・情報伝達体制の確認と強化

発災時に通信が制限される前提で、被災状況・道路被害・孤立懸念などの情報が、どの経路で集約され関係機関へ共有されるかを確認する。

②啓開調査・道路啓開の実走で初動を具体化

直轄事務所の実走を通じて、机上では見えにくい時間感覚や現場対応の課題を把握し、初動対応を行動レベルに落とし込む。

③協定企業等との連携確認

行政単独では完結しない道路啓開に向け、役割分担と連絡手順を再確認し、実災害時に円滑な協働ができる体制づくりを目指す。

5月開催予定「実動訓練」について <訓練内容(案)>

【発災想定・初動】

平日9:15に南海トラフ地震が発生した前提で、各機関が直ちに初動対応を開始。

訓練内容は、以下の3つのポイントで構成。

① 情報伝達訓練(全構成員)

- ・各機関の被災情報・対応状況を、定められた連絡体制に基づき共有する。
- ・各構成機関が参加し、被災情報の収集・集約・共有の流れを確認。

② 啓開調査・道路啓開 実走訓練(直轄)

- ・優先啓開ルート等を車両で走行し、被害想定に基づく調査結果を取りまとめて報告する。
- ・直轄事務所主体。車両でルート走行しながら調査・報告を実施し、発災直後の対応を具体化。
- ・事務所・関係機関で施設/所管路線の状況を確認し、所定の連絡経路で情報を共有。

③ 障害物除去訓練(協定企業等と連携)

- ・土砂・がれき・倒木等の撤去を想定した小規模の実動訓練を行い、情報・判断・行動の一体化を図る。
- ・災害協定企業等と連携し、土砂・がれき・倒木の撤去手順と安全確認を重視。
- ・大規模工事ではなく初動の実務力向上が主眼。(今回は、宮崎県内で1箇所会場[模擬被災箇所]での訓練を想定。)